

近畿日本鉄道(株)古市検車区古市車庫で

事故・災害対応復旧訓練を実施

令和4年11月10日(木)、列車事故等により負傷した乗客の救護、応急処置、災害復旧を円滑に行うことを目的として、近畿日本鉄道(株)古市検車区古市車庫にて、近畿日本鉄道、羽曳野警察、富田林市消防本部、河内長野市消防本部及び当消防組合との合同で、参加人員216名(うち70名が乗客役)、車両8台で事故・災害対応復旧訓練を行いました。

本訓練は、「列車が、古市駅～喜志駅間を速度55km/hの減速制動中、古市6号柱付近で、線路の道床の陥没により列車が脱線して停止した」との想定で行われました。

なお、陥没の原因は爆発物によるものと推測され、車内にて爆発物を仕掛けたと思われる1名を警察が確保するとともに、乗務員による乗客の誘導及び救急隊員による車内、応急救護所における救護活動が実施されました。

また、消防本部に設置した警防本部や指令センターへのウェアラブルカメラやスマートフォンから災害現場の映像を送る現場映像伝送訓練も行われました。

鉄道会社、警察、消防の垣根を越えた訓練は貴重な機会であり、災害時におけるお互いの活動の連携を図ることで非常に有意義な訓練となりました。



